

2016 年度 ANNUAL REPORT



公益社団法人 日本フィランソロピー協会

目次

2016 年度 アニュアルレポート発行にあたって	3
はじめに.....	4
出版事業	
機関誌「フィランソロピー」	6
冊子／調査レポート.....	7
顕彰事業	
まちかどのフィランソロピスト賞.....	8
企業フィランソロピー大賞.....	9
研修事業	
定例セミナー.....	10
フィランソロピーセミナー in 関西	11
Stone Soup Club	11
企業の CSR 支援事業	
従業員ボランティア推進プログラム.....	12
寄付推進プログラム（フィランソロピーバンク）	14
物品寄贈「あげます・もらいます」事業	16
助成事業支援.....	16
青少年育成事業	17
NPO 人材育成支援	18
東日本大震災の被災地支援.....	19
次世代育成事業	
チャリティーチャレンジ・プログラム.....	20
チャリティー・リレーマラソン.....	21
子どもの貧困 対策プロジェクト.....	22
共生社会づくり推進事業	
フィランソロピー名刺.....	23
資料編	
機関誌.....	24
定例セミナー.....	25
フィランソロピーセミナー in 関西／ Stone Soup Club	26
従業員ボランティア推進プログラム.....	27
寄付推進プログラム（フィランソロピーバンク）	28
復興応援 キリン絆プロジェクト	29
東日本大震災復興支援 サントリー東北サンさんプロジェクト チャレンジド・スポーツ支援事業.....	29
財務データ／会員数／役員.....	30

2016 年度 アニュアルレポート発行にあたって

公益社団法人日本フィランソロピー協会は、「一人ひとりが社会を創る主体としての責任を果たすため、企業フィランソロピーを核に個人の社会参加への道筋をつけ、民主主義の健全な育成を目指すこと」をミッションとして活動しています。このたび、2016 年度の活動報告と今後の方向性について、アニュアルレポートとしてお届け申し上げます。

「従業員参加を主軸にした企業フィランソロピー 支援事業」の推進

昨今、企業では、SDGs という言葉に関心が高まっています。2015 年 9 月の「国連持続可能な開発サミット」において、193 の加盟国の全会一致で「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択され、SDGs（持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals）が掲げられたことによります。SDGs のめざすべき "Leave no one behind"（誰一人取り残さない）という言葉に、その理念が凝縮されています。当協会は、障がいの有無、年齢、性差、国籍などの属性・境遇に関わらず、誰もが社会参加でき、生き生きと暮らす共生社会をめざしています。まさに SDGs の理念とベクトルを同じくしています。企業フィランソロピーの推進においても、2030 年のあるべき姿を実現するために、今、すべきことを骨太に考えてまいります。企業のステークホルダーを中心に、社会課題により深く関心を持ち、大きな意味で自分事として捉えていただくために、企業の担当者、NPO の皆さん、参加者の方々との密なコミュニケーションを取りながら、より効果ある活動へと進化させたいと思っております。さまざまな出会いが人としての共感を醸成し、新たな参画へとつながるよう伴走を続けてまいります。

課題から考える企業フィランソロピーの推進

昨今の複雑化・深刻化する課題の解決には、従来の縦割りの福祉や社会貢献の枠組みで考えるのではなく、包括的・横断的に捉えることが必要になってきました。2016 年度は、子どもの貧困問題の中で、従業員ボランティアなどの人財育成に特化して取り組みました。困難な状況にある子どもたちとの関係構築は、支援する人たち自身のコミュニケーション力の向上につながり、企業人の社会貢献の幅を広げることにも資すると思っております。ワークブックも作成しましたが、その過程でのヒヤリングや施設訪問などを通して、子どもの貧困問題は社会の様々な課題と関連し、そのひずみが子どもたちに^{おり}澱となって押し寄せていること、この課題の放置が、将来の、より深刻な社会問題の誘発につながることもわかってきました。この課題に引き続き取り組むことが、企業人自身の人間力向上と同時に、地域において子どもたちを見守り支える人財育成につながる実感を新たにし、2017 年度も、現場での実習を含めた研修とワークブック作成に取り組みます。そして、それを、企業フィランソロピーの充実と、参加する個人の層を厚くすることにつなげてまいります。

「次世代健全育成」の推進

民主主義の揺らぎが懸念される昨今ですが、フィランソロピーを民主主義の原点と捉える当協会では、青少年時代からの社会参加による市民意識醸成が肝要であると考え、小・中学校での寄付育「チャリティーチャレンジ・プログラム」を核に、被災地支援のための「チャリティー・リレーマラソン」も 5 回目を開催しました。2016 年 4 月の地震被災地熊本の中学生も参加し、その輪を拡げています。引き続き、民主主義の担い手としての次世代育成に尽力してまいります。

今後も、各セクターのネットワークを拡げ深めながら、課題解決に向けて力を結集するためのコーディネート役を果たしていきたいと思っております。本レポートにお目通しいただき、ご意見・ご要望に耳を傾けながら、スタッフ一同、不断の努力を続けてまいります。ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公益社団法人日本フィランソロピー協会
理事長 高橋 陽子

これまでのあゆみ

1960 年 第一次安保闘争を機に、ジャーナリスト・学者などの有識者を中心に、不偏不党の立場で自由闊達な民主的社會を実現するため、「国民政治研究会」として勉強会を開始。

1962 年 内閣総理大臣より公益法人としての認可を受ける。

1990 年 **フィランソロピー元年**

★バブル経済へ続く 1980 年代後半には、欧米に進出した企業が現地企業の社会貢献活動に触発されるなか、企業フィランソロピーやメセナ等、企業の社会貢献活動が盛んになり、1990 年には経済団体連合会の「1%クラブ」や「企業メセナ協議会」が発足、「フィランソロピー元年」と呼ばれた。（参考：内閣府「国民生活白書」より）

1991 年「企業市民室」を創設し、フィランソロピー推進事業を開始

フィランソロピーを民主主義の原点と据え、企業フィランソロピーを通じて、個人の社会参加推進につなげることを事業の柱として新たな出発をする。

9 月にシンポジウム『今、なぜフィランソロピーか』を開催
10 月より企業の担当者向けセミナーを開始

1992 年「月刊フィランソロピー」（現 機関誌「フィランソロピー」）創刊

1994 年「日本フィランソロピー協会」に改称

1995 年 **阪神・淡路大震災発災・ボランティア元年**

★阪神・淡路大震災で、数多くのボランティアがその救済や復興のために活躍。特に、社会人や学生がボランティアとして参加し、行政よりも柔軟に対応、「ボランティア元年」と呼ばれた。
（参考：内閣府「国民生活白書」より）

1995 年 神戸市長田区室内小学校の避難所の運営

1998 年 知的障害者のアートと暮らしをテーマにした記録映画「まひるの星」制作。「まちかどのフィランソロピスト賞」創設

2000 年 視覚障がい者、高齢者などへの音訳サービス「声の花束」開始

2003 年 **CSR 元年**

★ナイキの児童労働をめぐるサプライチェーン問題、エンロン事件を象徴として、コンプライアンス重視、コーポレートガバナンス時代に入った。SOX 法など法整備が進み、取締役の善管注意義務が強調される内部統制が進んだ。多くの企業で、CSR 担当部署が整備された。

2003 年「企業フィランソロピー大賞」創設

2005 年「まちかどのフィランソロピスト賞」に青少年部門創設

2007 年「フィランソロピーバンク」創設。文化庁主催「アート展・障がいのある人たちの作品たち」開催

2009 年 新公益法人制度の下、公益社団法人として認定
「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」開始

2010 年 会員向け勉強会「Stone Soup Club」発足

2011 年「寄付育（現 チャリティーチャレンジ・プログラム）」開始
「復興応援 キリン絆プロジェクト」開始
「チャリティー・リレーマラソン」開始

2013 年「フィランソロピーセミナー in 関西」開始

2014 年「サントリー東北サンさんプロジェクト チャレンジド・スポーツ支援事業」開始

2015 年「ボランティアウェブ」開始

はじめに

私たちが

フィランソロピー活動の原点と考えるものとは

当協会では、“企業フィランソロピー”を中心に活動していますが、“個人フィランソロピー”を、健全な民主主義を創出するための原点と考えています。

そのため、企業のステークホルダーである一人ひとりの個人が、「より良い社会創造のために自ら考え、課題解決に向けて行動する」ことを推奨しています。

フィランソロピーとは

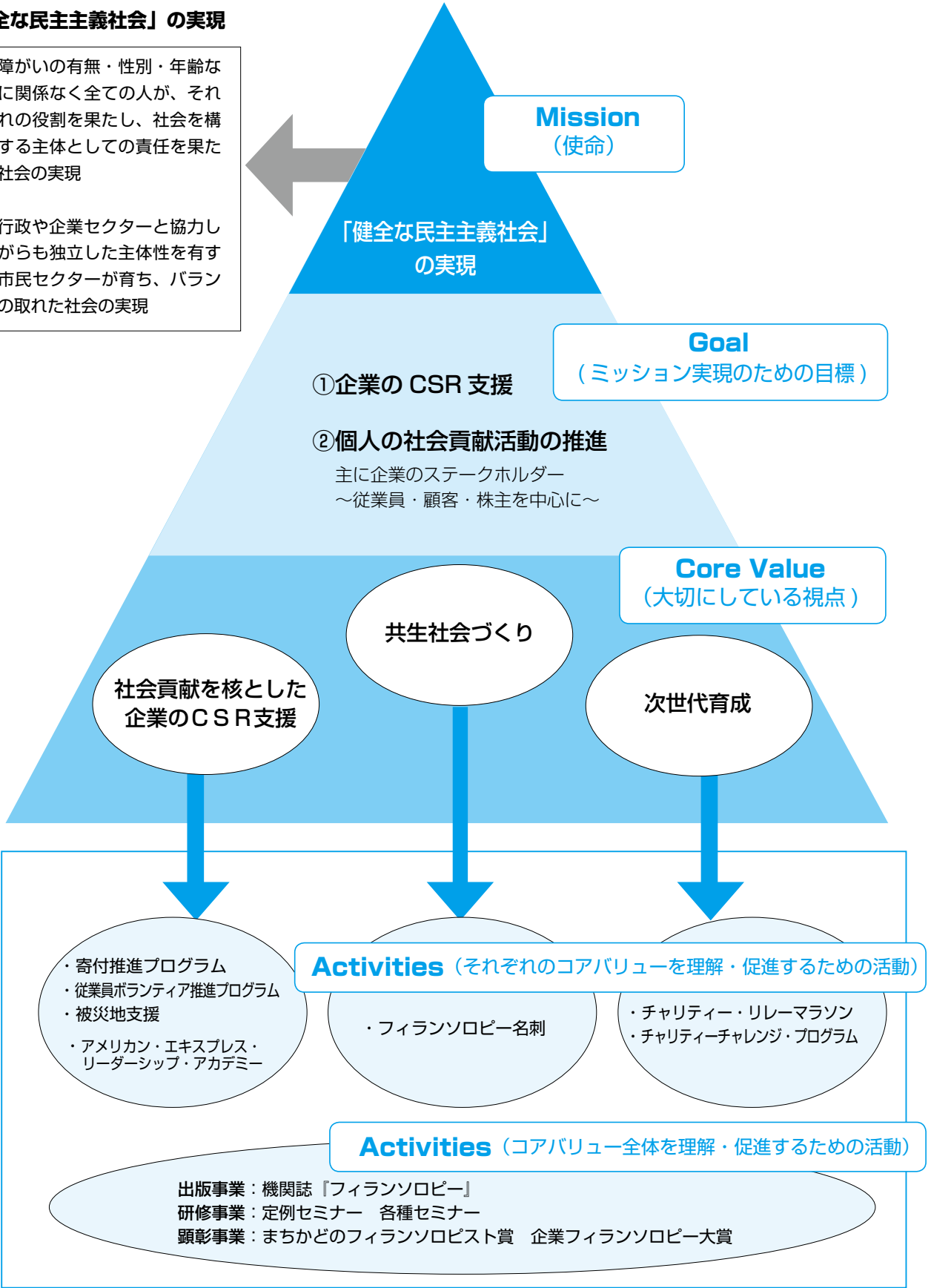
ギリシア語の「フィリア（愛）」と「アンソロpos（人類）」に由来する言葉で、「人類愛」「博愛」を意味し、今日的には「社会貢献」と訳されることが多いようです。また、フィランソロピーは、社会貢献活動を通して、社会の課題解決を図る、ということまでを包含する概念です。

フィランソロピー活動の主体は、本来は個人ですが、現在では企業の関わるフィランソロピー活動を企業フィランソロピーと言っています。

「健全な民主主義社会」の実現

障がいの有無・性別・年齢などに関係なく全ての人が、それぞれの役割を果たし、社会を構成する主体としての責任を果たす社会の実現

行政や企業セクターと協力しながらも独立した主体性を有する市民セクターが育ち、バランスの取れた社会の実現



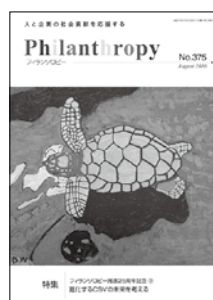
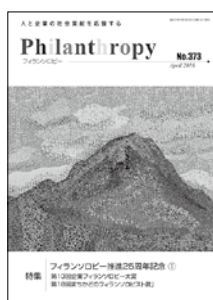
出版事業

フィランソロピーを拡げるために、各種の出版物や調査報告書の発刊を通して啓発活動に努めています。2017年8月現在381号を数える機関誌「フィランソロピー」では、創刊以来、社会の課題を抽出して特集として企画・編集するとともに、企業フィランソロピー活動の先進事例や、個人やNPOの活動について紹介しています。また、時節に応じて、各種のレポートを発行しています。

機関誌「フィランソロピー」(隔月発行)

表紙には、主に知的・精神障がいのある方の作品を掲載しています。作品をご紹介しますことで、読者に、彼らの魂の声、多彩な個性、固定観念・既成概念から解き放たれた自在な表現を感じていただければと、全国のアーティストを発掘しています。

目次のページには、作者のプロフィールや声を掲載しています。それを読んでいただくことで、実は、表紙そのものが、私たちのめざすフィランソロピーの具現化であることを感じていただければ幸いです。



2016年度	特 集
No.373 (4-5月号)	第13回企業フィランソロピー大賞／第18回まちかどのフィランソロピスト賞
No.374 (6-7月号)	フィランソロピーの温故知新
No.375 (8-9月号)	進化するCSVの未来を考える
No.376 (10-11月号)	これからの多様なボランティアの役割と可能性を探る
No.377 (12-1月号)	寄付に託すもの～寄付月間に寄せて
No.378 (2-3月号)	未来の幸せを創るため、今、何をするべきか

(機関誌「フィランソロピー」の発行内容は、資料編 p.24 をご参照ください)

冊子／調査レポート

『スターティングノート』『スターティングノート II』(2017年2月～3月発行)

「子どもの貧困」事業において、2冊のガイドブック『スターティングノート』を発行しました。『スターティングノート』では、子どもたちの抱える様々な事情や、大人が子どもたちと関わる際の心構えを紹介。『スターティングノート II』では、支援現場や、背後で活躍する専門家の思いや活動内容を紹介しています。

(子どもの貧困対策事業については、p.22 をご参照ください)



シンポジウム報告書

『「活動あって学びあり！」の社会貢献学習へ』

～募金・寄付を核にしたサービス・ラーニングの可能性～ (2017年3月発行)

サービス・ラーニングは、知識と社会貢献活動を融合させ、市民性や社会参画意識を育む教育法として、米国の多くの小中学校で導入されています。2017年3月、米国ポートランド州立大学教授クリスティン・クレス氏を招聘し、米国における教育効果と課題、日本で実践する意義と可能性について考えるシンポジウムを開催しました。

(「チャリティーチャレンジ・プログラム」については、p.20 をご参照ください)



『KIZUNA Story Book 農業編 2011→2016』(改訂版)

(2017年5月発行)

キリングループの震災復興支援「復興応援 キリン絆プロジェクト」では、東北の経済基盤でもある農業支援に取り組んできた、農作物のブランド育成支援、6次産業化に向けた販路拡大支援、将来にわたる担い手・リーダー育成支援について、各プロジェクトの復興へのストーリーをまとめた冊子を震災から5年の節目となる2016年3月に発行。発行時にまだ事業が完了していなかったプロジェクトを追加して、今回改訂版を発行しました。

(「復興応援 キリン絆プロジェクト」に対する当協会の協力については、p.19 をご参照ください)



顕彰事業

顕彰事業では、社会への貢献や社会の課題解決を目指す個人や企業による活動に光を当て、その思いやエピソードを広く紹介することで、寄付文化や社会貢献文化の醸成を目指しています。

まちかどのフィランソロピスト賞

米国に比べて日本では寄付に対する評価がまだ低いのが現状ですが、寄付活動はボランティア活動に並ぶ社会貢献活動の両輪です。1998 年度に創設した「まちかどのフィランソロピスト賞」では、日本における「寄付文化の醸成」を目的として、社会のために私財を投じた「個人」を顕彰しています。2005 年度に「青少年部門」を設け、2010 年度からは文部科学省の後援のもと「青少年フィランソロピスト賞」として内容を拡充し、次世代を担う子どもたちの寄付活動を推奨しています。

第 19 回まちかどのフィランソロピスト賞は以下の通り決定。2016 年 12 月 13 日、東京都千代田区の学士会館にて贈呈式を開催しました。



学士会館で行われた贈呈式

<一般部門>

「まちかどのフィランソロピスト賞」 田中 孝 氏
山内 大作 氏
「特別賞」 平 明広 氏

<青少年部門>

「文部科学大臣賞」 大津市立伊香立中学校
「奨励賞」 鈴木 智也 氏
小城市立砥川小学校
学校法人成城学校
成城中学校・高等学校

<選考委員>

委員長 出口 正之 氏
(国立民族学博物館 民族文化研究部 教授)
委 員 小林 征人 氏 (大和ハウス工業株式会社)
// 二宮 かおる 氏 (カルビー株式会社)
// 吉田 朋代 氏 (ロート製薬株式会社)

企業フィランソロピー大賞

「企業フィランソロピー大賞」では、社会課題に真摯に向き合い、経営ビジョンに基づいて、本業をはじめ自社の経営資源を活かし、社会の課題解決に資する活動や新たな価値創造を牽引する企業を2003年度から顕彰しています。事業形態や規模の大小に関係なく、社会課題の解決に力を注ぐ全国の企業やプロジェクトが対象になります。

第14回企業フィランソロピー大賞は以下の通り決定。2017年2月14日、東京都千代田区のプレスセンターホールにて贈呈式を開催しました。



プレスセンターで行われた贈呈式

<企業フィランソロピー大賞>

株式会社りそなホールディングス 受賞活動：「りそなキッズマネーアカデミー」

<企業フィランソロピー賞>

【育てよう 大地とともに賞】株式会社ストライプインターナショナル

受賞活動：「one tree プロジェクト」

【水と創る企業市民賞】TOTO 株式会社

受賞活動：「TOTO 水環境基金、グリーンボランティア」

【希望のコミュニティ賞】日本アムウェイ合同会社

受賞活動：「Remember HOPE ～東北復興支援プロジェクト～」

【インクルーシブスイーツ賞】株式会社パレスエンタープライズ パレスホテル大宮

受賞活動：「クッキープロジェクト」

<選考委員>

委員長 武田 晴人 氏（東京大学名誉教授）

委員 岩田 喜美枝 氏（公益財団法人21世紀職業財団 会長）

// 佐藤 雄二郎 氏（一般社団法人共同通信社 専務理事）

// 渋澤 健 氏（コモンズ投信株式会社 取締役会長）

研修事業

フィランソロピーについて知り学ぶ機会として、毎月東京で開催している「定例セミナー」、大阪で開催している「フィランソロピーセミナー in 関西」、および協会の会員企業の CSR・社会貢献担当者を対象とした学びと協働の場「Stone Soup Club」を設置しています。

定例セミナー

1991 年度にスタートした「定例セミナー」では、基本的に毎月、企業の CSR・社会貢献担当者だけでなく、NPO 職員やフィランソロピーに関心を持つ個人や学生を対象に、各分野の第一線で活躍されている学術研究者や先進事例を有する企業の担当者を講師に迎え、講演会を開催しています。フィランソロピーに関する理論や活動の現状を知り、問題意識を持ち、活動ノウハウを蓄積するだけでなく、講師や他の参加者とのネットワーキングの機会にもなっています。2016 年度は、12 回開催、のべ 393 名の方にご参加いただきました。

(詳細は、資料編 p.25 をご参照ください)

実施回 (月)	テーマ
第 317 回 (4 月)	CSR 基礎講座 『CSR 経営に資する社会貢献の推進～社会の中での企業の役割～』
第 318 回 (5 月)	CSR 基礎講座 『企業の社会貢献活動を立ち上げ広めてきた経験からの示唆』
第 319 回 (6 月)	CSR 基礎講座 『CSR 活動の土台となる理念の構築と社内を動かす仕組みづくり』
第 320 回 (6 月)	CSR 基礎講座 『企業における CSR 担当者の役割と期待されること』
第 321 回 (7 月)	『企業は、なぜ CSR に取り組むのか～欧州の先進企業の事例から考える～』
第 322 回 (9 月)	『「良心」による企業統治を考える～「良心」と「自利心」の双方を活かした経営とは～』
第 323 回 (10 月)	『福島の障がい者スポーツ普及活動から企業のボランティア機会を考える』
第 324 回 (11 月)	『社員ボランティアの推進～先進的な取り組み企業事例と協働 NPO からのヒント～』
第 325 回 (12 月)	『誰もが求める人と人とのつながり ～映画「隣(とな)る人」から人に寄り添う意味を考える～』
第 326 回 (1 月)	『スポーツを通じての社会貢献活動と人材育成を考える』
第 327 回 (2 月)	『社員参加型の社会貢献～社内募金・マッチングギフトにおける工夫～』
第 328 回 (3 月)	『人材育成に資する社会貢献活動の戦略的可能性』

<セミナー内容の紹介>

第 324 回のセミナーでは、社員ボランティアプログラムを強力に推進している先進企業の MSD 株式会社、株式会社 ジューシービー、大日本印刷株式会社、の 3 社の担当者にご登壇いただき、その取り組みの内容や工夫についてお話しいただきました。併せて、これら 3 社と協働している NPO 法人森のライフスタイル研究所の代表にご登壇いただき、社員ボランティアを受け入れている立場からの視点で、その役割や貢献、協働事例などについてお話しいただきました。

参加者の方からは、「社員ボランティアにおいて先進的・積極的な取り組みをされている企業様の事例や今後の課題を伺う機会はほとんどなかったの、とても貴重な経験になりました。企業側だけでなく、NPO 法人の方からもお話を伺うことでまた別の視点で考えることができました」「各企業の方がお持ちの問題意識や課題が共通しているものがあり、考え方や具体的な施策も含めて、非常に参考になりました」といったお声を頂きました。



フィランソロピーセミナー in 関西

地域版のセミナーとして、大阪で4回開催し、のべ118名の方が参加しました。

(詳細は、資料編 p.26 をご参照ください)

実施回 (月)	テーマ
第21回 (7月)	『NPOに聞く - 社員ボランティア推進のアイデア』
第22回 (9月)	『CSRを支える企業理念と社員のエンゲージメント強化の取り組み』
第23回 (11月)	『社員参加型の社会貢献～マッチングギフトの可能性』
第24回 (3月)	『CSRの最新トレンド～SDGs時代の企業責任』

<セミナー内容の紹介>

第23回のセミナーでは、マッチングギフトを取り上げ、グンゼ株式会社の『グンゼ ラブアース倶楽部』、積水ハウス株式会社の『積水ハウス マッチングプログラム』について、それぞれ事例紹介をいただき、その後グループディスカッションをしました。参加者の方からは、「具体的事例が聞けた。グループディスカッションでさらに他社の悩みを共有化できた」「2社それぞれの異なる背景状況を知れてとても参考になった」といった感想がありました。



Stone Soup Club

Stone Soup Clubは、会員企業のCSR・社会貢献担当者を対象とした、共に学び、考え、議論し、協働型の社会貢献活動を企画・実施するフォーラムです。座学だけでなく、グループディスカッション中心のワークショップや、体験会・見学会、また協働して実施する社会貢献プロジェクトなどがあります。

(詳細は、資料編 p.26 をご参照ください)

実施回 (月)	テーマ
第39回 (7月)	『障がい者スポーツを通じて共生社会の在り方を考える』
協働活動(11月～1月)	『被災地の子どもたちに絵本を届けるクリスマスプロジェクト』
第40回 (2月)	『JCB 社会貢献プログラム 復興支援プログラム 体験参加』

<活動の紹介>

第39回SSCでは、障がい者スポーツのひとつ「ボッチャ」を取り上げ、一般社団法人日本ボッチャ協会強化指導部長の村上光輝氏とリオ五輪の日本代表選手廣瀬隆喜氏と杉村英孝氏を講師に招き、障がい者スポーツに対して企業が取り組める継続的支援について議論しました。また、ボッチャを参加者全員で体験し、社内で行える体験の方法も検討。日本代表チームは、リオ五輪で銀メダルを獲得しました。



企業の CSR 支援 事業

CSR 支援事業では、企業の社会貢献活動の実施支援を行っています。社会貢献プログラムの企画立案や事務局代行だけでなく、従業員ボランティアプログラムの活動先とのマッチングや、寄付や助成プログラムにおける NPO などの支援先の調査選定・マッチングを行っています。企業、および、従業員など個人のフィランソロピー文化の醸成のため、支援先との顔の見える関係づくりを心がけています。

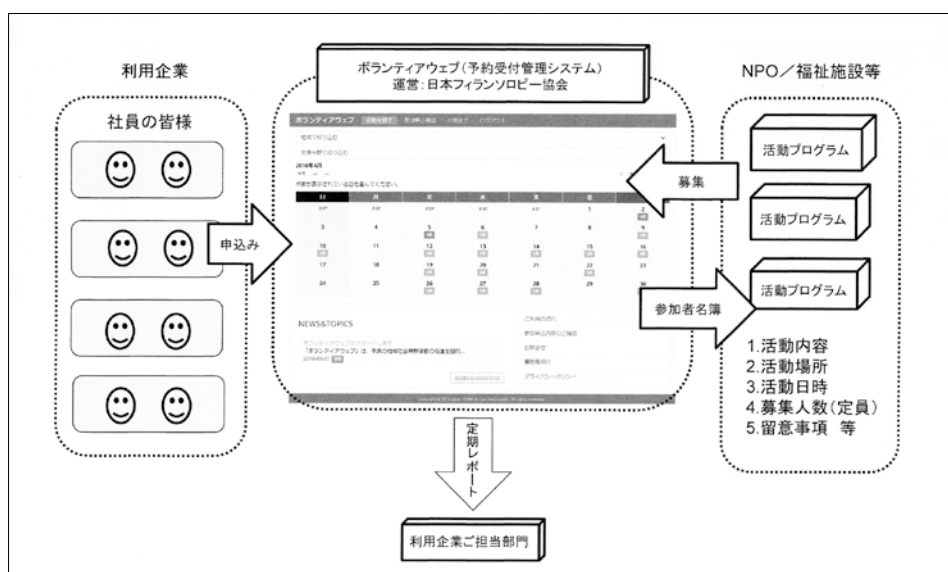
従業員ボランティア推進プログラム

企業の従業員の社会参加促進のため、会員企業をはじめとする企業の従業員ボランティアのプログラム企画開発や、受け入れ団体の紹介および調整、事前・事後研修、運営事務局等を行っています。2016 年度には、12 社のボランティアプログラムの実施をサポートし、のべ 6,920 名のボランティアマッチングを行いました。（詳細は、資料編 p.27 をご参照ください）

ボランティアウェブ

ボランティアウェブとは、当協会が開発し運営を行っているボランティアのマッチングサイト。全国の主要都市 5 地域（東京・大阪・福岡・札幌・名古屋）での様々ボランティア募集情報を掲載し、申込受付管理も行います。

利用契約を結んだ企業の従業員は、各社専用の ID とパスワードを使ってウェブサイトに 24 時間アクセスが可能。福祉や環境、国際協力など、関心のある分野のプログラムを選んで直接参加申し込みができます。



< 2016 年度ボランティアウェブをご利用いただいた企業 >

企業名	利用期間
株式会社 NTT ドコモ	2016 年 4 月からご利用中
サントリーホールディングス株式会社	2017 年 3 月からご利用中
日本ロレアル株式会社	2016 年 6 月の 1 か月間

＜ボランティアウェブ受入団体の声：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 岡本 喜代一 様＞

フェアトレードであるクラフトに関わるボランティアを紹介頂いています。参加者の方々は普段の業務と全く違う手作業で新鮮なようです。私どもの活動は草の根運動であり、こうした顔を見て、手を動かしながらのコミュニケーションがとても貴重です。ネットでは出来ないリアルな機会を提供して頂いている貴会にいつも感謝しています。

個別プログラム支援

個別企業向けに、ボランティアプログラムの企画や実施の支援も行っています。

＜2016年に個別支援を行った企業（50音順）＞

企業名	支援内容
アクセント株式会社	誰でもが気軽に参加できるボランティアプログラムを年間で実施。部門毎に開催するチーム活動や、新入社員研修向けの活動もある。
MSD 株式会社	本社や工場などの会議室で、就業時間後の時間を活用した社内ボランティアプログラムを年間で計画を立てて実施。
株式会社オリエントコーポレーション	本社の会議室にて、就業時間後の時間を活用した社内ボランティアプログラムを実施。
株式会社かんぽ生命保険	社内ボランティアプログラムを2016年6月と2017年1月に実施支援。
株式会社ジェーシービー	NPOなどを訪問してボランティアを行う「社外プログラム」、全国の社内会議室をTV会議でつないで行う「社内プログラム」、自宅で家族と一緒に参加できる「持ち帰りプログラム」の3つを柱に、年間を通じて開催される「JCB社会貢献プログラム」の実施を支援。
新日鉄住金エンジニアリング株式会社	本社の会議室にて、就業時間後の時間を活用した社内ボランティアプログラムを実施。
積水化学工業株式会社	本社から呼びかけを行なって、実施を希望する支社や工場、研究所の会議室にて、就業時間後の時間を活用した社内ボランティアプログラムを実施。
大日本印刷株式会社	東日本大震災の被災地ボランティアプログラムを実施。2016年度は7月・12月に石巻、10月には熊本地震被災地での活動を行いました。
日本電気株式会社	グループ社員の障がい者支援の充実化と認知向上を目指し障がい者のサポートボランティア活動を実施。事前・事後研修も実施。

当協会が企画ならびに運営サポートを行った事例

＜国内各支店への展開事例＞

株式会社ジェーシービー

創立50周年の2011年に、全役職員が年一回以上社会貢献活動に参加する『JCB社会貢献プログラム』を開始。「全拠点の従業員を対象に」「通年に渡り」「勤務時間中に参加できる」ことが特徴。2012年からは、TV会議システムを活用して国内の拠点を繋ぎ、「社内プログラム（ワークショップ）」を同時開催する取り組みも推進、2016年度は12回実施しました。



TV会議で複数の拠点をつなぎながら、保護犬のおもちゃ作りのボランティア

＜社内への展開事例＞

MSD 株式会社

2016 年度は、米国本社創立 125 周年を記念し、全世界で 125,000 時間を目指してボランティアチャレンジを推進しました。日本支社でも、通年での通常プログラムに加えて、全国営業会議における活動（3,000 人参加）や、新入社員研修等のプログラムを実施し、目標とした活動時間を大きく上回る成果を上げました。



全国営業会議におけるボランティアプログラムの実施

＜ボランティア推進月間事例＞

日本ロレアル株式会社

ロレアルグループでは、2010 年に「Citizen Day（シチズンデー）」を制定し、各国のロレアル社員が地域コミュニティ活動に参加。日本ロレアル株式会社では、2016 年 6 月の 1 ヶ月間に 500 人以上の社員が参加して、社会貢献活動を行いました。環境や社会的分野における非営利団体の活動に参加し、ボランティア活動を実施。1 ヶ月という期間の中で、21 種類 70 回ものプログラムを設定し、より多くの社員の方が興味あるプログラムに参加することを可能にしました。



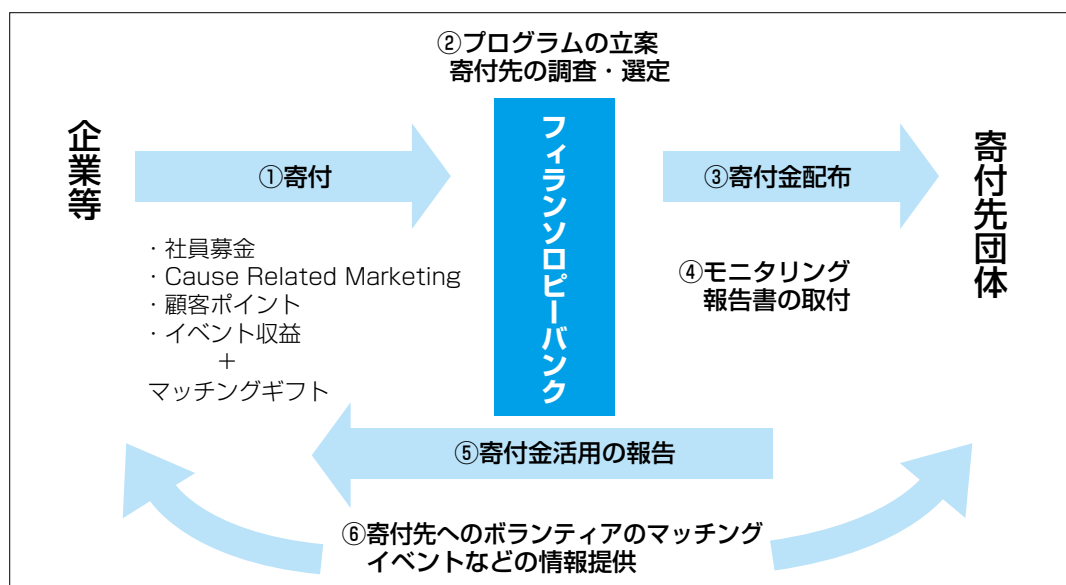
「こども食堂」を運営するコミュニティカフェでの食事準備手伝い

寄付推進プログラム（フィランソロピーバンク）

個人の寄付文化の醸成、NPO 等の非営利団体の財政基盤強化を目的に実施しています。

2016 年度には、10 社、1 個人のプログラムを運営し、のべ 103 団体に総額 100,489,270 円の寄付をつなぎました。（2016 年度の支援先のリストについては、資料編 p.28 をご参照ください）

＜フィランソロピーバンクの仕組み＞



注：金額は、2016 年度中に配布を行ったもののみの合計

< 2016 年度フィランソロピーバンク活用実績一覧> 企業・個人（五十音順）

企業・個人	寄付内容
アメリカン・エクスプレス・インターナショナル、Inc.	熊本地震の被災者支援のため、ギフトカードの売上げに応じた寄付やカード会員のポイントによる寄付を、被災地で活動する団体へ寄付。
株式会社 NTT データ	社内チャリティーイベントで集まった寄付金を、障がい者と IT という2つの分野で活動する NPO 3 団体に寄付。
株式会社かんぽ生命保険	保険商品でウェブ約款を選択した顧客数に応じ寄付金を拠出するプログラムで、森林の育成・保全を推進している環境分野の NPO 13 団体に寄付。
株式会社ジェーシービー	東日本大震災の復興支援策として、2011 年より継続実施されている『「5」のつく日。JCB で復興支援』。対象月の「5 日」「15 日」「25 日」の JCB カードご利用 1 回につき 1 円を被災地への支援金として JCB が拠出、2016 年度は被災地で活動する 20 団体に寄付。
東京海上日動あんしん生命保険株式会社	社員による寄付や、代理店でのグッズ販売の一部を難病患児支援団体、認知症啓発団体に寄付。
株式会社ファンケル	商品購入で貯まるポイントをお客様が寄付できる「お客様のポイント寄付」の 2016 年度分を、全国 10 ヶ所の重度心身障がいのための施設や NPO 団体に寄付。
FIL Foundation	NPO の基盤整備を目的として 3 団体に寄付。
株式会社みずほフィナンシャルグループ	社員による寄付を、社会福祉、教育、人道的活動、地域社会活性化・安心安全・コミュニティ形成、震災復興支援の分野で NPO 5 団体に寄付。
株式会社三井住友銀行	社員による寄付プログラムで、コミュニティ・次世代・環境の分野で活動する NPO 20 団体（海外活動 7 団体を含む）、および社員がボランティアをしている NPO 14 団体に寄付。
明治安田生命保険相互会社	同社主催の「愛と平和のチャリティーコンサート」の会場で集めた募金を、東北 3 県で「次世代育成」の分野で活動する NPO 6 団体に寄付。また、社会貢献活動基金を通じて、障がい者・高齢者支援および LGBT 支援を行う NPO 8 団体に寄付。
個人 1 名	東日本大震災被災地の教育支援団体に寄付。

<株式会社ジェーシービー 広報部 CSR 室 室長 佐藤 貴之 様>

JCB カードの利用 1 件につき 1 円を東日本大震災などからの復興活動にあたる NPO へ寄付する『「5」のつく日。JCB で復興支援』で 2011 年より利用しています。特に寄付先の選定では、支援が届きにくい先へ互いに顔が見える喜ばれる寄付を届けられるよう、公正中立な立場で助言くださるこの仕組みには大変お世話になっています。

<株式会社ファンケル CSR 推進室 臼井 裕人 様>

ファンケルでは 2008 年より、フィランソロピーバンクを通じて、お客様のポイント寄付を全国の重度心身障がい者施設（10 施設）へ寄付をしております。お客様からお預かりした貴重な善意による寄付ですので、客観性のあるフィランソロピーバンクを通じて寄付先を選定していただいております。寄付後には使用用途の確認までして下さるので信頼しております。



地域の里山保全を担う若手ボランティアリーダーを育成



生活困窮者や路上生活者の孤立防止支援



心の病を抱えた当事者・家族の安心した生活づくりを支援

物品寄贈「あげます・もらいます」事業

会員企業から引越・事業の変更等々で使うことがなくなった物品などのご提供を受け、必要とする NPO へ橋渡しする「あげます・もらいます」事業を行っています。2016 年度は、5 企業からのご提供品を 28 団体につなぎました。

< 2016 年度寄贈企業と物品一覧 >

年月	企業	寄贈物品
2016 年 5 月	キュービー株式会社	文具類
8 月	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	マグネット
9 月	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	文具類
12 月	アステラス製薬株式会社	デジタルフォトフレーム
12 月	株式会社ドコモ CS 関西	ドッチファイル
2017 年 3 月	三菱重工株式会社	形状記憶食器（スプーン・フォーク）

助成事業支援

田辺三菱製薬株式会社

「手のひらパートナープログラム」は 2016 年度に 5 期目を迎え、難病患者団体およびその支援団体へ助成し、17 団体への助成をつなぎました。

< 手のひらパートナープログラム 第5期 助成先一覧 >

団体名	所在地	事業名
特定非営利活動法人 日本慢性疾患セルフマネジメント協会	東京都	北海道における慢性疾患セルフマネジメントワークショップの開催とリーダー育成
特定非営利活動法人 ゆに	京都府	当事者をつくる重度訪問介護研修
一般社団法人 日本 A L S 協会岩手県支部	岩手県	岩手県における A L S 患者の医療的ケアを行うヘルパー養成およびコミュニケーションスキル獲得研修並びに患者と保健・福祉サービス事業者の連携バスの構築
SMA（脊髄性筋萎縮症）家族の会	京都府	スイッチ・コミュニケーション機器&ホスピタル・プレイ体験・相談会 in 九州
あすなろ会 若年性特発性関節炎の子を持つ親の会	東京都	あすなろ会ジュニア（患児）組織の充実化・地域リーダ育成の継続
特定非営利活動法人 I B D ネットワーク	熊本県	子どもの I B D 患者・家族から、学校の先生に渡す クローン病ガイドブック
特定非営利活動法人 三重難病連	三重県	就労支援ガイドブック作成事業
再発性多発軟骨炎（RP）患者会	福岡県	再発性多発軟骨炎実態調査及び R P 白書 2017 発行
北海道脊柱靱帯骨化症友の会	北海道	医療過疎地域で開催する家庭でできるリハビリキャラバン〜ネットワーク構築に向けて〜
一般社団法人 全国膠原病友の会	東京都	全国膠原病フォーラム in 千葉
特定非営利活動法人 表皮水疱症友の会 DebRA Japan	北海道	発足 10 周年記念 全国交流会（E B）キャラバン 「ひとりじゃない。みんなの笑顔はいのちの羽」
きよくん基金を募る会（SME の研究治療を進める会）	兵庫県	ドラベ症候群の生活の質（QOL）向上のための Web データベースの作成
一般社団法人 岩手県難病・疾病団体連絡協議会	岩手県	難病患者の生きがい作り そして社会参加事業
一般社団法人 全国パーキンソン病友の会広島県支部	広島県	小冊子『パーキンソン病とともに』改訂版発行 3000 冊
特定非営利活動法人 ウエルネスハート	兵庫県	視覚障害者の社会参加創出の推進と障害者と健常者の相互理解・コミュニケーション力向上のための心と体で感じるワークショップ
アンジェルマン症候群児親の会 エンジェルの会	和歌山県	アンジェルマン症候群啓発講演会
静岡県サルコ友の会	静岡県	静岡県サルコ友の会 医療講演会

日本たばこ産業株式会社

地域コミュニティの再生と活性化に取り組む NPO を支援する「JT NPO 助成事業」の 2017 年度助成の第一次審査を担当しました。同社は同年度の助成プログラムにおいて、全国 198 件の応募の中から、51 件の事業に助成を行っています。

青少年育成事業

東京海上日動あんしん生命保険株式会社

2016 年度、東京海上日動あんしん生命保険株式会社の創立 20 周年記念「東京海上日動あんしん生命 奨学金制度」および「東京海上日動あんしん生命 幼児教育支援制度」が新設され、実施を支援しています。奨学金制度は、疾病により保護者を失い、大学等への進学に経済的支援を必要とする 50 名に年間 30 万円を支給する給付型の奨学金制度です。また、未就学の遺児および一定の年齢の子どもで養育に経済的支援を必要とする 100 名に、株式会社ベネッセコーポレーションの「こどもちゃれんじ」を一定期間、無償で提供する制度です。

敷島製パン株式会社

2016 年 6 月に、敷島製パン株式会社が千葉県利根工場にて実施する中高生向けの社会貢献プログラム「国産小麦ゆめちから栽培研究プログラム」の一環で、食料自給率を考えるワークショップを企画・ファシリテートしました。

日本工業大学駒場中学校・高等学校、桐蔭学園中学校、山梨県立甲府第一高等学校の生徒が参加し、グループに分かれて日本人の食生活の変化、食材の産地調べなどのワークを行いました。



国産小麦ゆめちから栽培研究プログラム
ワークショップ

日本製紙株式会社

6月と9月の2回、日本製紙株式会社が群馬県の菅沼社
有林で小学生親子を対象に行う環境教育プログラム「森と紙のなかよし学校」の実施協力をしました。合計で 60 名の親子が参加しました。



森と紙のなかよし学校

NPO 人材育成支援

「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー ～ NPO リーダーのためのリーダーシップ育成プログラム～」

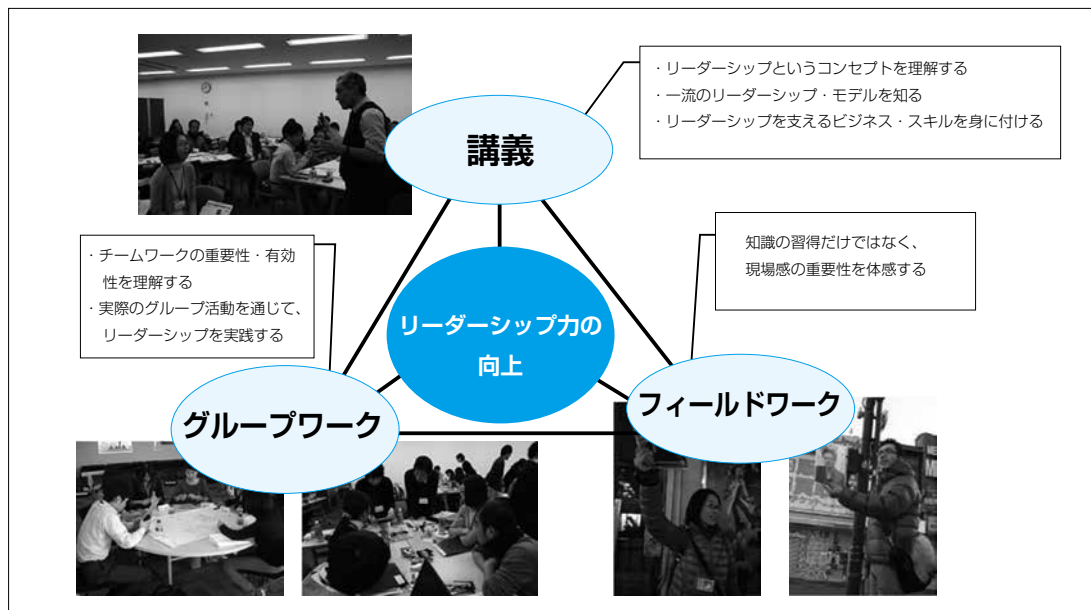
アメリカン・エクスプレス財団の助成金のもと、国内の NPO・NGO で働く若手職員を対象にした合宿形式のリーダーシップ研修の企画・運営を行っています。

2016 年度の助成金では、2016 年 2 月の東京に加えて、初めての地方開催となる研修を 5 月に福岡にて実施しました。研修の約半年後には、フォローアップ・セッションを開催。研修後の学びや挑戦について発表し共有しました。2017 年 2 月には、第 9 期となる研修を東京にて開催しています。当プログラムは 2009 年から毎年実施しており、これまで全国より 280 名が受講しています。

<カリキュラムの内容>

年月	福岡プログラム (2016 年 5 月開催/第 8 期)	東京プログラム (2017 年 2 月開催/第 9 期)
プログラム内容	<p><基礎講座 (理念・哲学)> 「見たくない未来を超えて」 「脱カリスマ時代のリーダーシップ」</p> <p><実務講座 (業務遂行能力)> 「ロジカルシンキングと問題解決スキル」 「モチベーション・マネジメント」 「災害救助犬の熊本地震緊急対応について」 「アメリカン・エクスプレスのリーダーシップ論」等</p> <p><グループワーク> ・ビジョンワークによる、社会的課題の再認識、掘り下げ、共有 ・課題に対する企画の作成およびプレゼンテーション準備 ・課題プレゼンテーション</p>	<p><基礎講座 (理念・哲学)> 「未来を拓くイノベーション」 「率先垂範のリーダーシップ論」</p> <p><実務講座 (業務遂行能力)> 「ロジカルシンキングと問題解決スキル」 「モチベーション・マネジメント」 「アメリカン・エクスプレスのリーダーシップ論」</p> <p><フィールドワーク> 「道端留学」(雑誌「ビッグイシュー」の販売サポート)</p> <p><グループワーク> ・ビジョンワークによる、社会的課題の再認識、掘り下げ、共有 ・課題に対する企画の作成およびプレゼンテーション準備 ・課題プレゼンテーション</p>
参加者	主に西日本の NPO 次世代リーダー 26 名	主に東日本の NPO 次世代リーダー 30 名
フォローアップセッション	フォローアップセッションを 2016 年 11 月開催 (参加者 19 名)	2015 年度のフォローアップセッションを 2016 年 8 月に開催 (参加者 21 名) 2016 年度のフォローアップセッションは 2017 年 9 月開催予定

<カリキュラムの構成と狙い>



東日本大震災の被災地支援

復興応援 キリン絆プロジェクト

「復興応援 キリン絆プロジェクト 福島農業支援」

昨年に引き続き、被災地の中でも複雑な問題を抱える福島県の農業支援を行いました。「農作物のブランドの育成支援」、「6次産業化に向けた販路拡大支援」、「将来にわたる担い手・リーダー育成支援」をテーマに行いました。（資料編 p.29 をご参照ください）

「東北復興・農業トレーニングセンタープロジェクト」

農業における次世代リーダーの人材育成と、新しい農業への取り組みを支援するため、同プログラムを2013年度から2015年度に実施。2016年度は、これまでの受講生東京124名、東北24名を対象に、各自が取り組むプロジェクトの具体化をさらに支援しました。



福島県全域の農業者ネットワークの支援



福島県相馬地区のトルコギキョウ産地化とブランド育成支援



福島県いわき市のオリーブプロジェクト

東日本大震災復興支援 サントリー東北サンさんプロジェクト チャレンジド・スポーツ支援事業

「チャレンジド・アスリート奨励金」

2016年度は、公募ののち、団体21団体、個人50名に、奨励金を給付しました。

＜審査員＞

田口 亜希 氏（パラリンピアン：射撃、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事）

福留 史朗 氏（パラリンピアン：陸上、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事）

増子 恵美 氏（パラリンピアン：車椅子バスケットボール、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事）

高橋 陽子（公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長）

「チャレンジド・スポーツアカデミー」

障がい者スポーツに対する理解を深めるため「アスリート・ビジット」として、チャレンジド・アスリートなどが3県の学校を訪問し、子どもたちに対する講演や競技体験会などを実施しました。一般向けにも、公募により「チャレンジド・スポーツ体験教室」を実施しました。

「チャレンジド・スポーツ育成サポート」

障がい者スポーツ育成のため、基盤強化・環境整備を支援。2016年度より各県にて車椅子スポーツ導入教室を実施し、障がい者スポーツのすそ野拡大に向けた講座を実施しました。



チャレンジド・スポーツ体験教室で車椅子バスケットボールを体験する参加者

（「東日本大震災復興支援 サントリー東北サンさんプロジェクト チャレンジド・スポーツ支援事業」の詳細は、資料編 p.29 をご参照ください）

次世代育成 事業

将来を担う子どもたちを対象に、寄付・募金活動を核とした社会貢献活動を推進し、自己肯定感の獲得、思いやりの心の醸成、事業成果の検証などを通し、人間としての成長支援、コミュニティへの参画意識の向上などとともに、寄付文化の醸成を目指します。

チャリティーチャレンジ・プログラム

募金・寄付を核とした社会貢献学習「チャリティーチャレンジ・プログラム」は、子どもたちが解決したい課題を話し合い、募金活動をして、社会に役立つ寄付をする社会貢献学習プログラムです。「募金・寄付」活動を通して地域社会を見つめ、さまざまな人とかわる中で、自己肯定感を高め、実社会での「生きる力」を育みます。

2016年度は、公益財団法人 JKA の助成を受けて、以下の事業を行いました。

- (1) 推進委員会の開催
- (2) 小中学校でのプログラム実施支援
杉並区立杉並和泉学園
墨田区立両国中学校
福岡県福津市立福岡中学校
佐賀県小城市立砥川小学校
熊本県高森町立高森中学校
熊本県高森町立高森東中学校
- (3) 教員向けセミナーの開催（8月、11月）
- (4) シンポジウムの開催（2017年3月）
- (5) 各校の事例やシンポジウムの講演内容を掲載した報告書作成
（p.7 参照）



2017年3月シンポジウムの様子



自分たちの取組みを発表する中学生



募金活動を通して子どもたちが思いを言語化し、地域社会の大人と交流します

<シンポジウム『活動あって学びあり！』の社会貢献学習へ』プログラム（2017年3月）>

1. 問題提起
「日本の学校教育におけるサービス・ラーニングの意義と可能性」
唐木 清志 氏（筑波大学 人間系准教授）
2. 特別講演
「米国の学校教育におけるサービス・ラーニング実践～その成果と課題～」
クリスティン・クレス氏（米国ポートランド州立大学 教授）
3. 募金・寄付を核にしたサービス・ラーニング チャリティーチャレンジ・プログラム」紹介
4. 学校事例紹介
高森町立高森中学校（熊本県）、小城市立砥川小学校（佐賀県）、墨田区立両国中学校（東京都）
5. パネルディスカッション

チャリティー・リレーマラソン

2011年度から始まった「チャリティー・リレーマラソン」は、中学生による被災地の復興支援活動。2016年度は、熊本地震が発災したことを受け、2016年度は、利他ネットワークを広げるべく熊本からも2校が参加。東北6校・熊本2校と東京10校の中学生が、自分たちで被災地の現状と課題を考え、7月に東京で募金活動とリレーマラソンを行いました。

集まった募金4,024,555円は、東北と熊本の8校に50万円ずつが寄付され、8月には東京参加校の被災地訪問、11月には寄付金使途報告会も行いました。

<プログラムの流れ>



東京各地での合同募金



伴走など多くの企業ボランティアが生徒を見守った



東北スタディツアー。岩手県の被災地を訪問し、地元の方々との交流を通じて、被災者の厳しい現実を学んだ

参加校

【東北6校】

- ・岩手県大船渡市立日頃市中学校
- ・岩手県大船渡市立吉浜中学校
- ・宮城県石巻市立蛇田中学校
- ・宮城県大崎市立古川中学校
- ・東北学院中学校
- ・福島県いわき市立勿来第一中学校

【熊本2校】

- ・高森町立高森中学校
- ・高森町立高森東中学校

【東京10校】

- ・中央区立銀座中学校
- ・墨田区立両国中学校
- ・江東区立有明中学校
- ・江東区立深川第一中学校
- ・江東区立深川第二中学校
- ・足立区立栗島中学校
- ・練馬区立大泉中学校
- ・八王子市立四谷中学校
- ・調布市立第六中学校
- ・東京学芸大学附属国際中等教育学校

特別協賛：EY Japan / 新日本有限責任監査法人

協賛：アサヒグループホールディングス株式会社、MSD 株式会社、クラシエホールディングス株式会社、株式会社ジェーシービー、東洋アルミニウム株式会社、トヨタ自動車株式会社、華為技術日本（ファーウェイ・ジャパン）株式会社、三菱地所株式会社

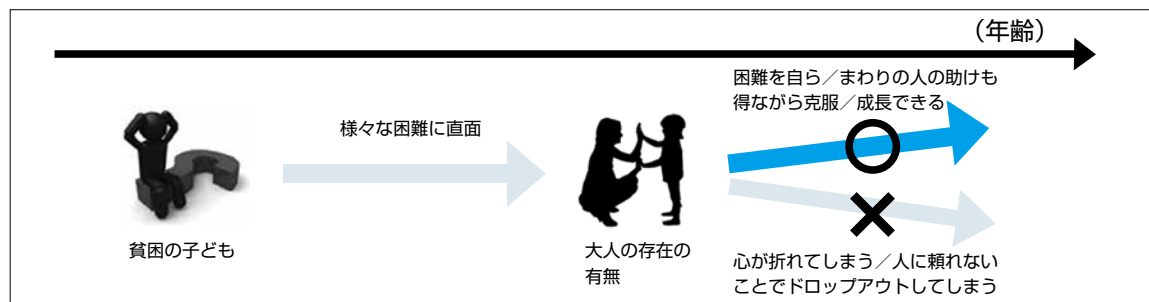


マラソン後の記念撮影。中学生、企業ボランティア総勢約200名

子どもの貧困 対策プロジェクト

子どもの貧困の問題に関する勉強会を企業担当者向けに2016年3月～6月に4回開催。その後、独立行政法人福祉医療機構より助成を受け、特に従業員ボランティアの育成に重点を置き、支援に携わりたいと思う人々を対象としたシンポジウムや研修等を開催。また、ガイドブックを作成しました。

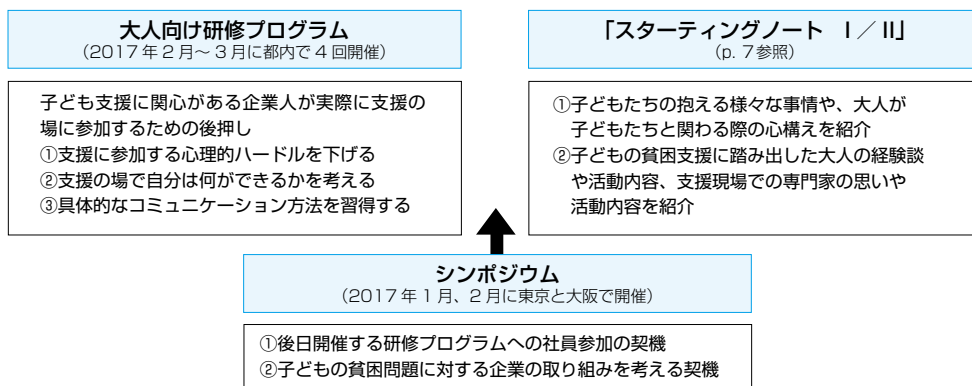
＜問題意識：親身に考えてくれる大人の存在の有無が子どもの成長には重要＞



＜2016年度の取り組み 目的と全体の構成＞

貧困の問題は経済的な貧しさ、つながりの貧しさ、精神的・身体的につらさを抱えることを含んでいます。そういう状況の子どもたちが希望を持って成長するためには、身近に親身に自分のことを考えてくれる大人の存在が重要です。そういう大人を地域にたくさん排出することを目的としています。

⇒ 子どもが自分のことを親身に考えてくれる大人と出会う可能性を高めるため、関心のある大人が支援の場に参加しやすくする後押しとするため3つの切り口から実施。



＜本プロジェクトの企画のための検討会に参加頂いた委員＞

委 員	提供いただいた視点	内 容
宮城県子ども総合センター 所長 本間 博彰 氏	児童精神科医からの視点	・臨床の知見からの示唆 ・子どもの自立支援活動に関する理論的裏付け
一般社団法人日本開業保険師協会 会長 村田 陽子 氏	保健師からの視点	・子どもの"心と体の健康"に関する総合的な経験から得られた知見からの示唆
株式会社リンクアンドモチベーション フェロー 田中 康之 氏	コミュニケーションからの視点	・子どもとの接し方／コミュニケーションの回り方に関する具体的な知見 ・ボランティア参加への動機づけ
慶応義塾大学大学院システムデザイン・ マネジメント研究科 教授 前野 隆司 氏	幸福の視点	・子どもが"幸せ"を感じるために必要な因子等の理論的裏付け
児童養護施設 東京家庭学校 施設長 松田 雄年 氏	児童養護施設からの視点	・日頃の子どもたちの様子や、子どもに接する職員の様子から得られた知見
公益財団法人 あすのば 代表理事 小河 光治 氏	当事者の視点	・実際に支援が必要な子どもの立場からの示唆

共生社会づくり 推進事業

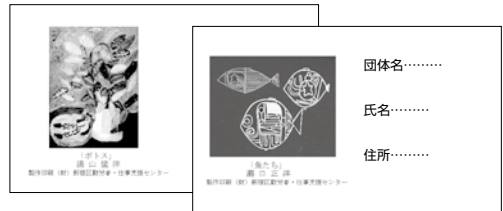
当協会では、一人ひとりの社会参加が健全な民主主義の原点になると考え、企業フィランソロピー事業においても従業員など企業のステークホルダーの社会参加・社会貢献の推進を心掛けています。

一人ひとりの市民が社会を創る一員として、主体的に社会参加・社会貢献をするフィランソロピー社会の実現を目指して、今後も個人フィランソロピーの推進をしていきます。

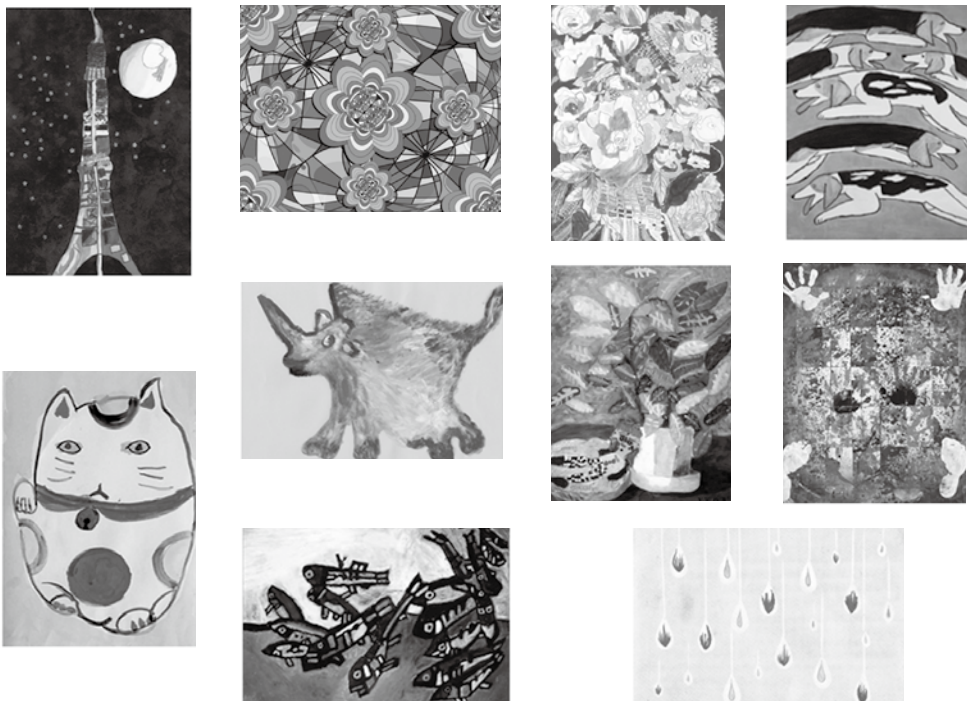
フィランソロピー名刺

個人としても参加できる社会貢献として、「フィランソロピー名刺プロジェクト」に取り組んでいます。障がいや難病などハンディキャップのあるアーティストの作品を利用した名刺を制作・販売し、名刺の受注で得た収益を、アーティストや所属団体に還元。名刺の印刷も福祉作業施設に委託し、プロジェクト全体で障がい者の可能性と魅力を示しつつ、経済的自立の支援につなげています。

- 2016 年度末アーティストの作品数：107 作品
- 2016 年度 制作件数：356 件（1 件／ 100 枚）



（アーティストの作品の一例）



◆ 注文方法

協会ウェブサイトの「作品カタログ」から作品をお選びいただきお申込みください。
<http://www.philanthropy.or.jp/meishi/>

機関誌（過去 3 年の発行内容）

月 / No.	内 容	巻頭インタビューのテーマ	巻頭インタビュー・インタビュイー
2014 年度			
4 月号 No.361	特集 1：いのちを見つめる科学教育 特集 2：第 11 回企業フィランソロピー大賞	生きる力を育てる教育は農業にあると確信 しています	中村 桂子 氏（JT 生命誌研究館 館長）
6 月号 No.362	寄付育のススメ	長期投資と寄付で理想の社会を積極的に 創っていく	渋澤 健 氏 （コモンズ投信株式会社 取締役会長）
8 月号 No.363	未来をつくるお寺の挑戦	仏教の価値観で社会によい影響を与えて いく	松本 紹圭 氏 （一般社団法人お寺の未来 代表理事）
10 月号 No.364	待ったなし、日本の森	あらゆるいのちへの優しさが美しい山を つくる	速水 亨 氏（速水林業 代表）
12 月号 No.365	多文化共生と「ダブルリミテッド」の現状	言葉の力を信じる子どもを育てたい	山根 基世 氏（アナウンサー）
2 月号 No.366	音楽が結ぶ人の心、人の力	「生きているだけですばらしい」と音楽で 伝えたい	小曽根 真 氏（ジャズピアニスト）
2015 年度			
4 月号 No.367	第 12 回企業フィランソロピー大賞 第 17 回まちかどのフィランソロピスト賞	—	—
6 月号 No.368	いつでもだれでもチャレンジできる社会を	元受刑者に心の羅針盤を授ける「職の親」	中井 政嗣 氏（千房株式会社 代表取締役）
8 月号 No.369	人間を幸せにするロボットの実像	ロボットと一緒に築く人間の幸福とは	前野 隆司 氏（慶應義塾大学大学院システム・ デザインマネジメント研究科委員長 / 教授）
10 月号 No.370	「お・も・て・な・し」を超えるホスピタリティの 本質を考える	お客様目線から生まれる日本一小さな航空 会社の魅力	吉村 孝司 氏（天草エアライン株式会社 代表取締役社長）
12 月号 No.371	寄付のススメ—寄付月間スタートに寄せて	途絶えていた寄付文化を再び取り戻す好機	小宮山 宏 氏（株式会社三菱総合研究所 理事長 / 寄付月間推進委員会 委員長）
2 月号 No.372	障がい者スポーツに見るフェアプレーの本質	長崎から世界の舞台へ 高校生アスリートの挑戦	車椅子バスケットボール選手 鳥海 連志 さん
2016 年度			
4 月号 No.373	第 13 回企業フィランソロピー大賞 第 18 回まちかどのフィランソロピスト賞	—	—
6 月号 No.374	フィランソロピーの温故知新 熊本地震の支援、いまこれから	「企業市民」と「ボランティア」の姿をたどりな がら、今後のフィランソロピーの在り方を考える	松岡 紀雄 氏（神奈川大学名誉教授） 早瀬 昇 氏（日本 NPO センター 代表理事）
8 月号 No.375	進化する CSV の未来を考える	企業と社会の新しい関係 循環型経済に挑む	山田 邦雄 氏（ロート製薬株式会社 代表取締役会長 兼 CEO）
10 月号 No.376	これからの多様なボランティアの役割と可能性 を探る	ボランティアに捧げた半世紀の軌跡	喜谷 昌代 氏（英国赤十字評議員）
12 月号 No.377	寄付に託すもの—寄付月間に寄せて	「利他のリターン」を通してより幸せな人生 を築いていこう	岡本 和久 氏（I-O ウェルズ・アドバイザーズ株 式会社 代表取締役社長）
2 月号 No.378	未来の幸せを創るため、今、何をすべきか	研究者として関与した、四十年の公益の 軌跡	雨宮 孝子 氏（前公益認定等委員会委員）

定例セミナー（2016 年度 実績）

実施日	内 容	実施日	内 容
第 317 回 2016 年 4 月 26 日	CSR 基礎講座 『CSR 経営に資する社会貢献の推進～社会の中での企業の役割～』 ＜講師＞高橋 陽子 (公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長)	第 324 回 11 月 25 日	『社員ボランティアの推進～先進的な取り組み企業事例と協働 NPO からのヒント～』 ＜講師＞ 植木 陽子 氏 (MSD 株式会社 広報部門 企業広報 シニア・スペシャリスト) 佐藤 貴之 氏 (株式会社 ジェーシービー 広報部 CSR 室 主事) 五十嵐 哲 氏 (大日本印刷株式会社 CSR・環境安全部 CSR 推進チーム) 竹垣 英信 氏 (NPO 法人森のライフスタイル研究所 遊撃隊員兼代表理事 所長)
第 318 回 5 月 18 日	CSR 基礎講座 『企業の社会貢献活動を立ち上げ広めてきた経験からの示唆』 ＜講師＞嶋田 実名子 氏 (個人情報保護委員会委員、前 公益財団法人花王芸術・科学財団 常務理事、元 花王株式会社コーポレートコミュニケーション部門理事)	第 325 回 12 月 26 日	『誰もが求める人と人とのつながり ～映画「隣(とな)る人」から人に寄り添う意味を考える～』 映画：『隣る人』 対談：『子どもに寄り添うということ』 ＜話し手＞児童養護施設 東京家庭学校 施設長 松田 雄年 氏 ＜聴き手＞公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長 高橋 陽子
第 319 回 6 月 3 日	CSR 基礎講座 『CSR 活動の土台となる理念の構築と社内を動かす仕組みづくり』 ＜講師＞黒坂 三重 氏 (楽天株式会社 執行役員 CSR 部 部長)	第 326 回 2017 年 1 月 18 日	『スポーツを通じての社会貢献活動と人材育成を考える』 ＜講師＞北澤 豪 氏 (サッカー元日本代表 / 公益財団法人日本サッカー協会理事兼フットサル・ビーチサッカー委員長 / 一般社団法人日本障がい者サッカー連盟会長)
第 320 回 6 月 13 日	CSR 基礎講座 『企業における CSR 担当者の役割と期待されること』 ＜講師＞金田 晃一 氏 (武田薬品工業株式会社 コーポレート・コミュニケーションズ&パブリックアフェアーズ CSR ヘッド)	第 327 回 2 月 21 日	『社員参加型の社会貢献～社内募金・マッチングギフトにおける工夫～』 ＜講師＞ 伊藤 春香 氏 (アメリカンファミリー生命保険会社 広報部 社会公共活動推進部長) 瓜生 振一郎 氏 (三菱重工業株式会社 グループ戦略推進室広報部 CSR グループ グループ長)
第 321 回 7 月 22 日	『企業は、なぜ CSR に取り組むのか～欧州の先進企業の事例から考える～』 ＜講師＞下田屋 毅 氏 (Sustainavision Ltd. (サステイナビジョン) 代表取締役)	第 328 回 3 月 21 日	人材育成に資する社会貢献活動の戦略的可能性 ＜講師＞ 伊藤 佐和 氏 (ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ 社会貢献委員会 マネジャー) 広瀬 雄樹 氏 (積水ハウス株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 CSR 室長)
第 322 回 9 月 15 日	『「良心」による企業統治を考える～「良心」と「自利心」の双方を活かした経営とは～』 ＜講師＞田中 一弘 氏 (一橋大学 大学院商学研究科 教授)		
第 323 回 10 月 27 日	『福島県の障がい者スポーツ普及活動から企業のボランティア機会を考える』 ＜講師＞増子 恵美 氏 (公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会 書記)		

フィランソロピーセミナー in 関西 (2016 年度 実績)

実施日	内 容
第 21 回 2016 年 7 月 26 日	『NPO に聞く - 社員ボランティア推進のアイデア』 ＜講師＞ 高野 太一 氏 (認定非営利活動法人 ビッグイシュー基金) 福田 留美 氏 (NPO 法人 にしよど にこネット) 浜辺 隆之 氏 (大阪市ボランティア・市民活動センター)
第 22 回 9 月 20 日	『CSR を支える企業理念と社員のエンゲージメント強化の取組み』 ＜講師＞黒坂 三重 氏 (楽天株式会社 執行役員 CSR 部 部長)
第 23 回 11 月 18 日	『社員参加型の社会貢献～マッチングギフトの可能性』 ＜事例紹介＞ グンゼ ラブアース倶楽部 (グンゼ株式会社) 積水ハウス マッチングプログラム (積水ハウス株式会社)
第 24 回 2017 年 3 月 10 日	『CSR の最新トレンド～ SDGs 時代の企業責任』 ＜講師＞関 正雄 氏 (損害保険ジャパン日本興亜株式会社)

Stone Soup Club (2016 年度 実績)

実施日	内 容
第 39 回 2016 年 7 月 29 日	『障がい者スポーツを通じて共生社会の在り方を考える』 ＜講師＞ 村上 光輝 氏 (一般社団法人日本ボッチャ協会強化指導部長 / リオデジャネイロパラリンピック ボッチャ日本代表ヘッドコーチ) 廣瀬 隆喜 選手 (リオデジャネイロパラリンピック ボッチャ日本代表) 杉村 英孝 選手 (リオデジャネイロパラリンピック ボッチャ日本代表)
11 月～1 月 協働活動	『被災地子どもたちに絵本を届けるクリスマスプロジェクト』(4 年目) ＜協働 NPO＞ 認定非営利活動法人 地球の楽好
第 40 回 2017 年 2 月 16 日	『JCB 社会貢献プログラム 復興支援プログラム 体験参加』 第一部：『石巻の現状とこれから～最後のひとりが仮設を出るまで』 ＜講師＞ 兼子 佳恵 氏 (特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク 代表理事) 第二部：『追悼「絵灯籠」づくり』 ＜講師＞ 小林 祥子 氏 (特定非営利活動法人 COCONET / カラーセラピスト)

従業員ボランティア推進プログラム（2016 年度 実績）

ボランティア 活動実施地域	協働先団体名（一部抜粋）	ボランティア 活動実施地域	協働先団体名（一部抜粋）
北海道	特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会	関 東	特定非営利活動法人森のライフスタイル研究所
北海道	社会福祉法人円山溪仁会	関 東	認定特定非営利活動法人ぐらす・かわさき
北海道	特定非営利活動法人とらいわく	関 東	社会福祉法人育桜福祉会
北海道	社会福祉法人札幌恵友会	関 東	社会福祉法人カメリア会
北海道	医療法人社団清和会	関 東	社会福祉法人ともかわさき
北海道	特定非営利活動法人さっぽろ AM スポーツクラブ	関 東	市民ボランティア団体久地円筒分水サポートクラブ
北海道	特定非営利活動法人 ezorock	関 東	特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク
北海道	気仙沼千岩田地区太鼓まつり実行委員会	関 東	認定特定非営利活動法人フローレンス
関 東	特定非営利活動法人シャブラニール＝市民による 海外協力の会	関 東	認定特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ ジャパン
関 東	給食ボランティアグループ「赤とんぼ」	関 東	認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト
関 東	特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン	関 東	一般社団法人日本ファミリー協議会
関 東	特定非営利活動法人ばお	関 東	NPO 法人みどり福祉ホーム
関 東	特定非営利活動法人セカンドハーベスト・ジャパン	関 東	社会福祉法人全国社会福祉協議会
関 東	地球農園（テラ・ファーム）	関 東	手をつなぐフェスティバル実行委員会
関 東	認定特定非営利活動法人 ESA アジア教育支援の会	中 部	特定非営利活動法人みたけ・500 万人の木曽川 トラスト
関 東	社会福祉法人港区社会福祉協議会	中 部	社会福祉法人コスモス福祉会
関 東	認定特定非営利活動法人 ACE	中 部	認定非営利活動法人 CAPNA
関 東	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会	中 部	社会福祉法人 AJU 自立の家
関 東	社会福祉法人太陽福祉協会	関 西	特定非営利活動法人ビッグイシュー基金
関 東	港区立特別養護老人ホーム サン・サン赤坂	関 西	社会福祉法人ぷくぷく福祉会
関 東	認定特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ ネットワーク	関 西	NPO 法人にしよど にこネット
関 東	認定特定非営利活動法人日本ハビタット協会	関 西	特定非営利活動法人日本クリニクラウン協会
関 東	認定特定非営利活動法人幼い難民を考える会	関 西	特定非営利活動法人プール・ボランティア
関 東	認定特定非営利活動法人ファミリーハウス	関 西	クリーンパトロール 楠友クラブ
関 東	特定非営利活動法人 ADRA Japan	関 西	帝塚山音楽祭実行委員会
関 東	特定非営利活動法人難民を助ける会 (AAR Japan)	中 国	特定非営利活動法人かべ工房村
関 東	認定特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力 市民の会	中 国	「もとまち自遊ひろば」の会
関 東	認定 NPO 法人キーパーソン21	九 州	特定非営利活動法人グリーンシティ福岡
関 東	認定特定非営利活動法人ばれっと	九 州	国営海の中道海浜公園管理センター
関 東	アトリエほんちょう	全 国	三鷹市三鷹駅周辺地域包括支援センター
関 東	特定非営利活動法人荒川クリーンエイド・フォーラム	全 国	全国夢のチョコレートプロジェクト
関 東	特定非営利活動法人全国女性会館協議会	全 国	なとり復興プロジェクト
関 東	社会福祉法人東京家庭学校	全 国	認定 NPO 法人日本グッド・トイ委員会
関 東	認定特定非営利活動法人 WE 21	全 国	一般社団法人東京キワニスクラブ
		全 国	一般社団法人名取市観光物産協会
		全 国	株式会社ピリカ

寄付推進プログラム（フィランソロピーバンク）（2016 年度寄付先一覧）

寄付元	寄付先	寄付元	寄付先
アメリカン・エクスプレス・インターナショナル Inc	公益財団法人 熊本 YMCA	FIL Foundation	特定非営利活動法人 DxP 特定非営利活動法人 青少年自立援助センター 特定非営利活動法人 TENOHASI
株式会社 NTT データ	公益財団法人 あすのば 特定非営利活動法人 Rebit 認定特定非営利活動法人 ACE	株式会社みずほフィナンシャルグループ	特定非営利活動法人 アスイク 特定非営利活動法人 北関東医療相談会 特定非営利活動法人 にぎやか NPO 法人 女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ 特定非営利活動法人 岡山マインド「こころ」
株式会社かんぽ生命保険	特定非営利活動法人 北海道森林ボランティア協会 NPO 法人 いわきの森に親しむ会 特定非営利活動法人 トチギ環境未来基地 特定非営利活動法人 よこはま里山研究所 特定非営利活動法人 JUON（樹恩）NETWORK 特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所 特定非営利活動法人 きんたろう倶楽部 特定非営利活動法人 しずおか環境教育研究会 特定非営利活動法人 自然と緑 特定非営利活動法人 もりふれ倶楽部 特定非営利活動法人 朝霧森林倶楽部 特定非営利活動法人 山村塾 特定非営利活動法人 どんぐり 1000 年の森をつくる会	株式会社三井住友銀行（テーマ選出）	特定非営利活動法人 生活相談サポートセンター 特定非営利活動法人 ロージーベル 特定非営利活動法人 サバイバルネット・ライフ 特定非営利活動法人 ちば MD エコネット 特定非営利活動法人 生活困窮・ホームレス自立支援ガンバの会 特定非営利活動法人 ピアサポートネットしぶや 特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島 特定非営利活動法人 全国こども福祉センター 特定非営利活動法人 あっとすくーる 特定非営利活動法人 CAP センター・JAPAN 特定非営利活動法人 はなのいえ 特定非営利活動法人 おかやまエネルギーの未来を考える会 NPO 法人 福岡すまいの会 特定非営利活動法人 ホープ・インターナショナル開発機構 特定非営利活動法人 Class for Everyone 特定非営利活動法人 ジャパンハート 特定非営利活動法人 道普請人 特定非営利活動法人 地球と未来の環境基金 特定非営利活動法人 地球の友と歩む会 特定非営利活動法人 ムラのミライ
株式会社ジェーシービー	任意団体 Arts for HOPE 特定非営利活動法人 じぶん未来クラブ 一般財団法人 オーバーザレインボウ基金 公益社団法人 MORIUMIUS 特定非営利活動法人 母と子の虹の架け橋 特定非営利活動法人 バクト 特定非営利活動法人 アスイク 任意団体 SocialAcademy 寺子屋 一般社団法人 SAVE TAKATA 特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス 特定非営利活動法人 いわきオリーブプロジェクト 特定非営利活動法人 熱気球運営機構 特定非営利活動法人 びば！！南三陸 一般社団法人 ボランティアステーション in 気仙沼 一般社団法人 ReRoots 一般社団法人 コミュニティ・4・チルドレン 任意団体 手作りくらぶ Arabesque 特定非営利活動法人 しんせい 特定非営利活動法人 相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会 特定非営利活動法人 遠野まごころネット	（社員ボランティア先から選出）	特定非営利活動法人 ようき・すなお会 社会福祉法人 啓光福祉会 特定非営利活動法人 聴覚障害教育支援大塚クラブ 社会福祉法人 東京栄和会 一般社団法人 まほろば 一般社団法人 日本甲冑武具研究保存会 特定非営利活動法人 山の自然学クラブ 特定非営利活動法人 アジアの障害者活動を支援する会 一般社団法人 コモン・ニジェール 公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会 特定非営利活動法人 ワークス・コレクティブ オリーブ 一般社団法人 わかちあいプロジェクト 特定非営利活動法人 篠山国際理解センター 特定非営利活動法人 放課後 NPO アフタースクール
東京海上日動あんしん生命保険株式会社	特定非営利活動法人 認知症フレンドシップクラブ 認定 NPO 法人 難病の子ども支援全国ネットワーク 特定非営利活動法人 日本クリニクラウン協会		
株式会社ファンケル	社会福祉法人 侑愛会 社会福祉法人 つどいの家 特定非営利活動法人 うりずん 社会福祉法人 訪問の家（生活介護事業所 朋） 社会福祉法人 ハヶ岳名水会 社会福祉法人 くろべ福祉会 社会福祉法人 バルツァ事業会 社会福祉法人 ともえ会 社会福祉法人 今治福祉施設協会 社会福祉法人 島原市手をつなぐ育成会	明治安田生命保険相互会社	特定非営利活動法人 うれし野こども図書室 特定非営利活動法人 バクト 一般社団法人 プレーワーカーズ 一般社団法人 マザー・ウイング 特定非営利活動法人 あぶくまエヌエスネット 一般社団法人 あすびと福島
		個人 1 名	特定非営利活動法人アスイク

復興応援 キリン絆プロジェクト（2016 年度 実施プロジェクト）

助成先団体名・プロジェクト名	事業内容
いわき 6 次化協議会 「いわき食 Lab o プロジェクト」	いわき産農作物の加工品によるいわき野菜のブランド化・一次産業モデルづくり
ふくしま土壌ネットワーク 「桃の力プロジェクト～福島には本当のおいしさがある～」	福島の代表的な桃「あかつき」のブランド化
J A そうま トルコギキョウ生産部会 「咲かそうま トルコギキョウ魅力アッププロジェクト」	トルコギキョウを中心とした福島の花の産地育成・ブランド育成
がんばっぺ！あんぼ柿協議会 「伝統産業 伊達のあんぼ柿の復活と継承～新たな挑戦～」	90 年以上の歴史を持つ、伊達のあんぼ柿のブランド再生と育成
そうま 天のつづブランド協議会 「天のつづ ブランド育成プロジェクト」	福島県発祥のブランド米「天のつづ」のそうま地域でのブランド育成・加工品
郡山ブランド野菜協議会 「郡山ブランド野菜による食文化創造プロジェクト」	郡山の土地を象徴する「ブランド野菜」を生み出していき、郡山市の食文化の魅力向上に寄与
一般社団法人 Cool Agri 「～地元を誇りに～福島食 発信プロジェクト」	浜中会津の地域農業を先導する若手農家が一丸となり、福島県の食の美味しさ、それを作る人、地域、その誇りを伝達
福島魁プロジェクト 「お客様と創る福島食の魅力」発信プロジェクト	開発段階から県内消費者と一緒に福島食の食材を使ってギフトを創っていくことで、生産者との心の距離を縮め、安心の先にある喜びや誇りを一緒に構築することをめざす
郡山地域果実醸造研究会・郡山市 「新たなワイン産地の人づくり 産学官連携人材育成事業」	これまで福島県郡山市で作られていなかった「ワイン用品種のブドウ」を栽培し、加工から販売までを一連で運営していくための「人づくり」を目指す

東日本大震災復興支援 サントリー東北サンさんプロジェクト チャレンジド・スポーツ支援事業（2016 年度 実績）

「チャレンジド・スポーツアカデミー」：アスリート・ビジット

開催日	実施会場	生徒数	実施競技
2016 年 4 月 27 日	岩手県大槌町立大槌学園中等部	76 名	車椅子バスケットボール
6 月 15 日	福島県広野町立広野中学校	69 名	車椅子バスケットボール
7 月 14 日	宮城県利府町立利府西中学校	120 名	車椅子バスケットボール
8 月 24 日	岩手県宮古市立第一中学校	90 名	車椅子バスケットボール
10 月 25 日	福島県立相馬市立桜丘小学校	70 名	車椅子バスケットボール
11 月 29 日	宮城県巨理町立荒浜中学校	90 名	車椅子バスケットボール
11 月 30 日	岩手県山田町立豊間根中学校	64 名	車椅子バスケットボール
2017 年 1 月 11 日	福島県飯館村立飯館中学校	88 名	車椅子バスケットボール
2 月 17 日	宮城県山元町立坂元中学校	77 名	車椅子バスケットボール

「チャレンジド・スポーツアカデミー」：チャレンジド・スポーツ体験教室

開催日	実施会場	生徒数	実施競技
2016 年 6 月 4 日	東北学院大学 泉キャンパス	220 名	車椅子バスケットボール

「チャレンジド・スポーツ育成サポート」車椅子スポーツ導入教育

開催日	実施会場	参加者数	講師
2016 年 7 月 9 日	宮城県多賀城市総合体育館	25 名	橋本 大佑 氏 (ドイツ障害者スポーツ連盟公認リハビリテーションスポーツ指導者) 上原 大佑 氏 (2010 年バンクーバー・パラリンピック アイスレジャホッケー 銀メダリスト)

貸借対照表

(2017年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	2016年度	2015年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現 金 預 金	31,226,128	104,543,112	△ 73,316,984
未 収 金	11,445,495	10,289,763	1,155,732
前 払 費 用	1,889,876	3,094,585	△ 1,204,709
貯 蔵 品	396,674	222,882	173,792
流動資産合計	44,958,173	118,150,342	△ 73,192,169
2. 固定資産			
役 員 退 任 慰 労 引 当 資 産	11,877,000	9,377,000	2,500,000
職 員 退 職 給 付 引 当 資 産	2,806,600	1,828,610	977,990
受 取 寄 付 金 資 産	100,610,169	161,022,461	△ 60,412,292
受 取 助 成 金 資 産	10,296,901	8,800,763	1,496,138
普 及 啓 発 事 業 等 積 立 資 金	50,000,000	0	50,000,000
ソ フ ト ウ ェ ア	1,467,169	1,793,401	△ 326,232
そ の 他 固 定 資 産	14,062	19,488	△ 5,426
固定資産合計	177,071,901	182,841,723	△ 5,769,822
資産合計	222,030,074	300,992,065	△ 78,961,991
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	8,126,063	16,171,122	△ 8,045,059
前 受 金	2,305,121	810,000	1,495,121
預 り 金	841,532	597,686	243,846
未 払 消 費 税 等	765,500	638,500	127,000
賞 与 引 当 金	2,729,000	1,880,000	849,000
流動負債合計	14,767,216	20,097,308	△ 5,330,092
2. 固定負債			
役 員 退 任 慰 労 引 当 金	11,877,000	9,377,000	2,500,000
職 員 退 職 給 付 引 当 金	2,806,600	1,828,610	977,990
固定負債合計	14,683,600	11,205,610	3,477,990
負債合計	29,450,816	31,302,918	△ 1,852,102
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	110,907,070	169,823,224	△ 58,916,154
2. 一般正味財産	81,672,188	99,865,923	△ 18,193,735
正味財産合計	192,579,258	269,689,147	△ 77,109,889
負債及び正味財産合計	222,030,074	300,992,065	△ 78,961,991

会員数の推移

	2013年度末	2014年度末	2015年度末	2016年度末
正 会 員 (法 人)	34	34	33	29
賛助会員 (法 人)	80	79	81	88
賛助会員 (個 人)	88	89	83	88

正味財産増減計算書

(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

科 目		2016年度	2015年度	(単位:円)
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費		22,728,000	22,644,000	84,000
正会員受取会費		10,920,000	12,360,000	△ 1,440,000
事業員受取会費		11,808,000	10,284,000	1,524,000
事業収益		40,451,189	39,572,427	878,762
1. 社会貢献啓発事業収益		439,054	364,390	74,664
2. 社会貢献促進事業収益		38,892,997	38,393,807	499,190
3. 社会貢献創造事業収益		1,119,138	814,230	304,908
受取寄付金		23,529,530	9,479,706	14,049,824
受取雑収益		194,841,004	290,124,704	△ 95,283,700
受取雑収益		4,493	153,957	△ 149,464
受取雑収益		4,493	153,957	△ 149,464
受取雑収益		0	0	0
経常収益計		281,554,216	361,974,794	△ 80,420,578
(2) 経常費用				
事業費		284,145,068	366,031,235	△ 81,886,167
(公1) 社会貢献啓発事業費		10,112,763	7,870,458	2,242,305
(公2) 社会貢献促進事業費		257,770,521	356,116,008	△ 98,345,487
(公3) 社会貢献創造事業費		15,455,648	1,918,546	13,537,102
(公益共通事業)		806,136	126,223	679,913
管理費		15,602,883	15,770,604	△ 167,721
経常費用計		299,747,951	381,801,839	△ 82,053,888
当期経常増減額		△ 18,193,735	△ 19,827,045	1,633,310
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計		0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計		0	0	0
当期経常外増減額		0	0	0
当期一般正味財産増減額		△ 18,193,735	△ 19,827,045	1,633,310
一般正味財産期首残高		99,865,923	119,692,968	△ 19,827,045
一般正味財産期末残高		81,672,188	99,865,923	△ 18,193,735
II 指定正味財産増減の部				
受取助成金		16,519,590	14,625,744	1,893,846
受取寄付金		104,387,725	216,218,463	△ 111,830,738
一般財産へ振替		△ 179,823,469	△ 247,694,481	67,871,012
当期指定正味財産増減額		△ 58,916,154	△ 16,850,274	△ 42,065,880
指定正味財産期首残高		169,823,224	186,673,498	△ 16,850,274
指定正味財産期末残高		110,907,070	169,823,224	△ 58,916,154
III 正味財産期末残高		192,579,258	269,689,147	△ 77,109,889

役員・顧問

会 長	浅野 史郎	神奈川大学 特別招聘教授／元・宮城県知事
副会長	田中 克人	東北福祉大学 特任教授
理事長	高橋 陽子	
理 事	井関 利明	慶應義塾大学 名誉教授
理 事	太田 達男	公益財団法人公益法人協会 理事長
理 事	木全 ミツ	認定特定非営利活動法人 JKSK 女性の活力を社会の活力に 会長・理事長
理 事	河野 通和	株式会社ほぼ日
理 事	佐藤 雄二郎	株式会社共同通信社 代表取締役社長
理 事	篠塚 英子	お茶の水女子大学 名誉教授
理 事	永田 俊一	楽天銀行株式会社 取締役
理 事	藤原 作弥	エッセイスト／元・日本銀行 副総裁
理 事	藤原 房子	ジャーナリスト
理 事	堀田 力	公益財団法人さわやか福祉財団 会長
理 事	村木 厚子	元・厚生労働事務次官
理 事	山崎 美貴子	東京ボランティア・市民活動センター 所長
監 事	奥川 貴弥	弁護士
監 事	尾崎 輝郎	公認会計士
顧 問	松岡 紀雄	神奈川大学 名誉教授

(2017年7月1日現在)

2016年度 ANNUAL REPORT

2017年8月1日 発行

発 行：公益社団法人 日本フィランソロピー協会

〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル 244

TEL：03-5205-7580

FAX：03-5205-7585

URL：<http://www.philanthropy.or.jp>



(最寄駅)

- JR「東京」駅 丸の内北口より徒歩5分
- 地下鉄「大手町」駅 B3 出口直結
(東京メトロ 丸ノ内線／千代田線／東西線／半蔵門線、都営地下鉄 三田線)